

7/11 幡豆地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理	事前意見・質問等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
1	幡豆地区のコミュニティバス〔東幡豆〕	<p>【要望】</p> <p>幡豆地区、特に東幡豆校区は、食品の販売店や銀行が無くなり、病院も内科が1軒あるだけで、生活を維持する為に、隣の西幡豆町や蒲郡市へ行かなければなりません。今後、高齢化が進むと車の運転ができない人が増えることが予想され、コミュニティバスの必要性を強く感じます。</p> <p>幡豆地区は海と山に囲まれた細長い地域のため、国道やバイパスと旧道を中心に回る路線で、多くの地域がカバーできるため、路線の選定もしやすいと思います。市内の他地区にはコミュニティバスがあり、一番必要な地区に無いのは不公平感を感じます。協議会についても、市民はわかりませんので、今後、どのようにするのか、できるだけ具体的に教えてください。</p>	<p>【回答】</p> <p>となりの吉良地区にはコミュニティバスは走っていませんが、地区公共交通協議会をはじめとする協議がまとまり、昨年3月から「いこまいかーの目的地の拡大」を開始しているところです。「いこまいかー」とは、必要なときにタクシー車両が自宅まで迎えに来てくれて、駅など予め決められた場所まで送ってくれる移動サービスであり、目的地の拡大後は吉良地区においてたいへん良い評価を得ています。</p> <p>昨年度、幡豆地区においても住民代表や民生委員、代表町内会長、包括支援センターの方などで構成される地区公共交通協議会が設立され、幡豆地区に適した移動サービスについて検討してまいりました。その中で、自宅からバス停までの移動も大変であるため、幡豆地区でもバスではなく、「いこまいかーの目的地の拡大」を目指すこととし、駅のほか、支所や商業施設、医療機関、金融機関などを目的地にすることにいたしました。</p> <p>現在、タクシー事業者と協議・調整をしている段階であり、東幡豆の地域特性から蒲郡市への移動についても考慮しているところです。最終的に市公共交通活性化協議会などで協議がまとまりましたら、サービスを開始していきますので、もうしばらく時間をいただきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。</p>	地域つながり課
2	竹林対策〔幡豆〕	<p>【質問】</p> <p>過去と比較すると竹林が相当、増えていると思います。竹林が増えると保水力が低下し、土砂災害につながるものが予想され、全国的な問題となっています。積極的な対策をしなければ、森林が消滅し全てが竹林になってしまいます。</p> <p>他市町の有効的な対策を調査するなど、長期的な計画を策定していますか。</p> <p>昨年5月の公報で募集された『里山の竹林整備地』はどのような結果でしたか。</p> <p>今年2月に森林所有者意向調査が行われましたが、山林に占める竹林の割合はどのようですか。また、航空写真などで実態は把握されていますか。</p>	<p>現在、森林に関する計画は森林法に基づき平成27年度に策定した西尾市森林整備計画がございしますが、竹林被害に対応するための計画は策定しておりません。</p> <p>昨年公募により実施しました里山の竹林整備につきましては、県の補助事業である「あい森と緑づくり事業」を活用し、上羽角町と八ツ面町の雑木林約1.6haにおいて、竹の伐採整備を行い、所有者が管理しやすい山林となっております。</p> <p>2月に実施した森林所有者意向等調査につきましては、回収率は約68%で、山林に占める竹林の割合は約14%でありました。</p> <p>また、竹林の実態把握のための航空写真の撮影につきましては行っておりませんが、西尾市の森林の状況を把握するため、今後、航空レーザー測量などにより実態の把握をしていく予定です。</p>	農林水産課
3	ため池の災害対策（耐震補強）〔東幡豆〕	<p>【質問】</p> <p>近年、大規模地震やそれに伴う津波、集中豪雨、洪水などがいつ起きても不思議ではないと言われており、各町内会や自主防災会でも、意識を高めています。</p> <p>災害対策の中で、ため池の耐震補強について、お伺いします。彦田池では耐震強度が足りず、一度は、今年度より耐震補強工事を開始する予定と聞いていましたが、残念ながら現時点では着工されておらず、予定されない状況です。彦田池の下流には、民家の他に避難所となる東幡豆小学校や東幡豆唯一の病院があり、池に被害が出た場合を町内会の住民も心配しています。他地区のため池も含め、どのように補強工事を進めていくのか教えてください。</p>	<p>西尾市内には、ため池が74か所ございまして、この内、決壊や崩壊時の浸水域に家屋や公共施設などが在り、人的被害を与える恐れのあるため池を「防災重点ため池」に指定し、優先的に安全対策を進めることとしています。</p> <p>防災重点ため池の指定は29か所で、この内、対策を要するため池は17か所であり、耐震工事などの対策を順次進めています。</p> <p>ご意見の彦田池につきましては、ご指摘の通り、耐震診断の結果、耐震性が不足し、対策が必要なため池となっておりますので、現在は、愛知県におきまして効果的な耐震工法の設計が進められており、令和2年度に事業着手し、令和4年度には対策工事が完了する予定と聞いております。</p>	土木課

7/11 幡豆地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理	事前意見・質問等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
4	通学路の安全確保〔幡豆〕	<p>【提案】 近年、通学途中での事故や犯罪に子どもたちが巻き込まれる事を報道を通して耳にします。それらを未然に防ぐには、日頃の対策が必要だと思います。地域住民の見守りボランティア等もその一環だと思いますが、行政、学校、地域の連携強化が大切だと思います。 そこで、防災マップのような通学路マップを作成して、危険な場所などの問題点を共有し、見守りボランティアにはそのような場所に重点的に注意したり、防犯カメラの設置に役立てることはできませんか。</p>	<p>ご提案ありがとうございます。現在、市内小中学校のうち、すべての小学校において、スクールガード等の見守りボランティアが組織されており、日頃、保護者や教職員とともに登下校時の安全にご協力をいただいております。 防災マップのような通学路マップについては、半数以上の学校で作成しており、一部の学校では、校区町内会や見守りボランティアにも配布し、危険箇所等について共有しているところもあります。 また、各校区には警察署の委嘱を受けた「こども110番の家」を設置しております。こうした地域の皆さまと連携・協力した、通学路の危険箇所特に注意した安全確保の取り組みを引き続き行ってまいりたいと考えております。</p>	学校教育課
5	特別支援が必要な人への支援〔東幡豆〕	<p>【質問】 安城の特別支援学校への入学希望者が多く大変であると聞きます。近隣に特別支援学校ができ、少し緩和されたようですが、それでも人数が多いようです。そこで、今後西尾市に建設される県立特別支援学校の予定について、具体的に教えてください。 また、支援が必要な子どもを持つ親の一番の心配は、親なき後にいかに生きていくかということです。障害者年金などがありますが、生活できるだけの収入が必要です。支援が必要な人が働き、収入を得ようとするために、現在どのような支援があるのか教えてください。また、今後そのような支援を行っていくかなど計画があれば教えてください。</p>	<p>【教育庶務課回答分】 今回、市内に建設を進めている特別支援学校は、愛知県が事業主体となり、県立学校として整備を行い、管理・運営するものであります。新設校の概要ですが、県によると、県下で初めての知的障害と肢体不自由の両方に対応する学校で、小学部、中学部及び高等部を備え、想定児童生徒数は、約240人程度とされています。通学区域は、西尾市、碧南市及び安城市（安城市は肢体不自由のみ）が予定されています。 令和元年度から、建設地の造成工事に入り、令和4年4月の開校に向けて準備を進めております。</p> <p>【福祉課回答分】 障害者の就労支援ですが、福祉課では一般就労に向けた訓練を行う就労移行支援、一般就労が困難な方に働く場を提供するとともに、着替え、食事等自分の身の回りのことを自分でできる訓練を行う就労継続支援等の障害福祉サービスの支給決定を行っております。また、ハローワークと合同で障害者の方を対象とした就職面接会を年1回行っております。 今後もハローワーク、相談支援事業所及び障害福祉サービス提供事業所などと連携し、障害者の就労支援に向けた施策を検討していきたいと考えております。</p>	福祉課 教育庶務課
6	幡豆の地域特性を生かした開発〔幡豆〕	<p>【要望】 東日本大震災以降、「海が近い」という短絡的な風評により幡豆の土地の価格が急激に低下していると聞きます。このため、少子化による人口減少傾向に拍車がかかっていると思います。 幡豆地区は、他の地区に比べて標高が高く地盤は強固で、地震や津波に対して強く、海が近いことで温暖で暮らしやすい気候です。このようなメリットをアピールし、デベロッパー（土地開発業者）等に対し積極的に働きかけを行ってほしい。</p>	<p>移住、定住を促進するため、市の魅力や「住むまち」としてのイメージを発信するシティプロモーション冊子「にしおじかん」を作成したり、ホームページの開設やフェイスブックなどのSNSを活用して、市内外に向けた情報発信力の強化に努めているところです。 冊子については、市内外の不動産業者やハウジングセンターでのイベントなどで、子育て世代を中心に広く配布しています。冊子「にしおじかん」は、西尾で生活する移住者の生の声を掲載し、温暖な気候で住みやすい場所である幡豆地区の魅力を紹介しています。 デベロッパーによる宅地開発は、需要と供給の中で民間事業者により行われるものであり、必ずしも市の思いや方向性が実現されるものではありません。 現在、幡豆地区の自然の豊かさと住環境の調和に惹かれ、市外から移住した若者たちが、幡豆地域を盛り上げようと様々な活動を行っております。豊かな自然環境に恵まれた幡豆地区の魅力については、十分認識しておりますので、引き続き西尾の魅力、幡豆の魅力について積極的に情報を発信してまいります。</p>	秘書広報広聴課

7/11 幡豆地区 令和元年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理	事前意見・質問等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
7	愛知県企業庁の山〔幡豆〕	<p>【質問】 愛知県の企業庁が所管している山について、最近、台風が来ると倒木やがけ崩れが発生しており、いつまでも放置され荒れ放題になっています。山沿いには、車1台が通行できるほどの道路があり、交通に支障をきたします。この山の利用について、何か計画がありますか。また、市から要望などは出していますか。</p>	<p>愛知県企業庁が管理している山につきまして、倒木や崖崩れなど車の交通に支障をきたしている場合がございます。市を通じて管理者である企業庁へ連絡し、対応をお願いしてまいりますので、企業誘致課まで連絡をお願いします。</p> <p>また、土地の利用方法につきまして、今までに企業庁へ採石場跡地を利用した工業系の開発計画や県営の公園設置などの検討をお願いしましたが、法規制や事業の採算性などの面から困難との回答を受けております。このように地区全体の利用方法となりますと、なかなか見つからない状況でありますので、市では現在、まずは一部でも利活用ができないかと、再度、採石場跡地における工業系の開発を強く要望しているところであります。また、地区全体の利用方法についても、企業庁と市との勉強会を通して幅広く検討しているところでありますので、ご理解をお願いします。</p>	企業誘致課